

令和 7 年 第 8 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 7 年 8 月 21 日（金） 午後 1 時 00 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田 尚 教育総務課長、齋 修 生涯学習課長
- 5 開 会 午後 3 時 00 分
- 6 令和 7 年第 7 回教育委員会定例会及び第 1 回教育委員会臨時会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
林委員、片倉委員 署名。
- 7 教育長報告
（1）一般事務報告
報告第 9 号 令和 7 年度学校給食実施計画について
櫻田教育総務課長より説明。

（2）専決事務報告 なし
- 8 議 事
議案第 33 号 大河原町学校給食審議会委員の任命について
櫻田教育総務課長より説明。
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。
- 9 その他
（1）教育長報告
1 伊藤 比呂美
（1）『自分の感受性くらい』（茨木のり子）の解説
伊藤比呂美氏は、茨木のり子氏の詩の解説を書いた作家。茨木のり子氏の文章の分

析と解釈が非常に素晴らしい。

（２）生き延びるための「文学」

伊藤比呂美氏へのインタビュー記事。小さい頃から父親に読み聞かせをしてもらい、文学の世界に入り込んでいった。『世界少年少女文学全集』を買ってもらったが、小さい頃は読まなかったが、ある年齢に達したら読むようになったということが書いてある。

文学というのはどこかに連れて行ってくれる、外に連れ出してくれるものというもので、本を読むことの大事さを語っているもの。

また、自身の娘が不登校になり、場面緘黙であったそうだが、その娘さんに対してコミュニケーションをしに学校へ行かせたほうが良いという考え方で、誰かと話をしなさいという事で通学させたということ。

現在、大河原町で実施している「OH！かわら楽校」も、不登校の児童生徒を外に連れ出し、社会性やコミュニケーション能力を伸ばしていく取り組みであるが、伊藤氏の考えと繋がっているのではないかと感じる。そういう意味で、この伊藤氏のインタビュー記事から学ぶことがたくさんあると感じている。

２ 子どもの居場所

（１）「子どもの居場所をどうつくる？」でいいのか？（阿比留久美）

次に、「子どもの居場所づくり」ということで、早稲田大学の阿比留久美先生の著書。あまり大人が先手先手を打って場所を整えることはせず、子ども達にもアイディアを出させる。子どもはそれだけの力を持っていると主張している。子供が考える時間が子供を育てることになるし、大人への信頼にも繋がっていく。そういうことだと思う。

これも子供に委ねるという意味で、現在各学校で実施している対話的授業も、授業の一部を子供同士の対話に委ねている。教師が一方的に授業を行うのではなく、子供が考えた試行錯誤の時間というのを大事にしていくことが、必要ではないかというようなことを感じたもの。

（２）子ども第三の居場所「おおがわらきち」概要

NPO法人アスイクが運営する、子ども第三の居場所「おおがわらきち」について。令和7年12月に開所予定であり、だいぶ建物も出来てきた。子ども約20名を収容できる施設で、いじめや虐待、不登校、食事をとっていない等、そのような事情がある子どもに対して、基本的な生活習慣を身につけさせたり、学びの場にするとのこと。

「おおがわらきち」が12月に完成すれば、心のケアハウス、そして学校内にある学び支援教室と合わせて3ヶ所となり、子ども達の選択肢が増えるということで、それぞれのニーズに合った場所を選んでもらい、学びの場になれば良いと思う。

3 教科書

(1) デジタル教科書と紙の教科書 (石井順治)

石井順治先生のデジタル教科書と紙の教科書について。算数のデジタル教材について書かれている部分を紹介。ブロックの操作について、機械がやると本当にわかりづらく、紙の教科書を使い実際にグループで触らせてやらせた方がずっとわかりやすいのではないかと思う。デジタルの最も良いところでは、図形や俯瞰できること、繰り返しできるとか、そういうところをうまく活用し、繰り返し繰り返し上がり下がりなど、子ども達が一番つまずきやすいところは、しっかりと実物を使って考える。そういうことが大事なのではないかと思う。

(2) 「私と算数」(伊藤美誠、大谷翔平、野口聡一)

東京書籍の算数の教科書に載っている「私と算数」より。卓球の伊藤美誠選手、野球の大谷翔平選手、それから宇宙飛行士の野口聡一氏の3名が、自分の仕事と算数の関係性を述べているもの。3人とも卓球、野球、宇宙の仕事それぞれが算数・数学と本当に関係していると言っている。このような志教育に繋がることを教科書に取り入れて、子供たちに算数教育の必要性を説いているのだと感じたもの。

4 深い学びの実現に向かう授業づくり (石井英真^{てるまさ})

京都大学の石井英真先生の記事。深い学びの実現に向けてということで、現在、自由進度学習が流行っているが、国語などを見ると、教科書と教材と向き合っていないというような場面が多くある。つまり、自由進度学習が本当に深い学びに至っているかということ、表面的な学びで、深い学びには至っていないのではないか。深い学びにするためにはどうすればいいかということで、学習教材と向き合うような方策をとらなければならないのではないかと述べているもの。

また、教材研究について、先生の教材研究と一緒に子供たちもやらせてみるというようなことも提案されている。教材にきちんと向き合い、考えていく、そのような授業が普段の授業でも大事であり、こういうような深い学びが、今の文科省が提唱しているテーマであり、本当に大事なところだなと思う。

大河原町でも対話的学びを進めており、昨日宮城教育大学の田端先生に金ケ瀬小学校の今回の全国学力テストの分析をしていただいた。金ケ瀬小学校では全てで伸びており、また、正答率だけではなく、非認知能力も高い。学習への意欲が高く本当に素晴らしい。

田端先生がおっしゃるには、金ケ瀬小学校の先生方の同僚性の高さというか、本当に良い関係性の原因になっているのではないかと話をされていた。

もう一つは今年の金ケ瀬小学校6年生が非常に人に興味がある。例えば誕生会を開いたり、人と接するのが大好きなんだそう。つまり、人に興味があるということは、相手を

思いやる、そういう優しさに繋がっているのではないかと田端先生はおっしゃっていた。また、根気強く、金ヶ瀬小学校6年生は、成績の通り本当にくじけずにやり通すというような学年である。

5 不登校についての新たな理解と支援（上・下）（明橋大二）

不登校についての新たな理解と支援ということで、心療内科の医師である明橋大二先生の記事。中学校3年生時点で不登校だった子どもについて、ほぼ8割の子どもは5年後に回復しているというようなデータを書いている。

それから不登校は、怠けやわがままではなく防衛反応だと言っている。ポリヴェーガル理論といい、防衛反応のひとつである凍り付き反応である。その凍り付き反応を徐々に解凍していき柔らかくしていくということが、不登校からの回復に繋がっている。

6 いじめ問題「私が加害者？ どうして？ ①～④」

いじめ問題、私が加害者どうして？ ということで、小野田正利先生が4回にわたって連載しているもの。現在のいじめ防止対策推進法の問題点として、一方的に加害者とされた側の反論のチャンスが全く無い等、法の落とし穴がまだまだあるため、今後これらの不備を改正していく必要があるのではないかと。

7 チームによる学級担任制（天笠茂）

チームによる学級担任制について、教科担任制は良いと思うが、やはり学級担任制は今の現状の配置人数では無理だと思う。つまり5クラスだったら5人しかいない中、それでフリーのどのクラスも皆で見るっていうのは、これは不可能だと思うし大変だと思う。今よりひどくなるのではないかと思います。

京都市の小学校で、フリーの学級担任制を実施している学校があり、1学年2クラスの学年にもう1人をプラスして配置して3人体制で行っている。2クラスを3人体制にすると、若い先生などは自分のお子さんが熱を出したときなど、通常自分のクラスを持っているとなかなか休めないが、プラス1だと余裕があり、皆で授業を見ることができる。そのような体制がやはり必要ではないかと思う。

今後、加配教員を各学年にもう1人ずつ配置できた場合は、フリーでチームによる学級担任をさせたい。現状で先生方にチームによる学級担任制をやらせることは、より負担になると感じている。

8 働き方改革は誰のため？（榎並隆博）

働き方改革は誰のためということで、通信表について、現在通信表を無くすとか、評定をつけるのをやめる、あるいは所見を書くのをやめる等様々な意見が出ているが、榎並教授の意見としては、やはり所見をなくしてはいけないと説いている。

何のために教師になったのか、教師としての誇りは何なのか、少なくとも自身の教師としての矜持を脅かすような「働き方改革」にはなってはいけないと述べているもの。

9 令和7年度全国学力・学習状況調査結果

10 全国学力学習状況調査で出題された漢字の読み書きと計算

11 その他

- (1) 大河原小 指導主事訪問
- (2) 町特別支援教育連絡協議会①
- (3) 大河原中 指導力向上研修〔数学〕
- (4) 金ヶ瀬中 指導力向上研修〔数学〕
- (5) OH!かわら楽校③「みんなで遊ぼう」
- (6) 町算数チャレンジ数学オリンピック
- (7) ジュニアリーダー初級研修会
- (8) 中学生夢・未来会議
- (9) 町学校運営等研修会
- (10) 大河原中 全学級道徳授業の日

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和7年度行事予定について説明。

林 委 員	現在ケアハウスに勤務しているが、子供の居場所を考えるとどうしても大人が作った場所に子供を来させるかたちになってしまっている。 それで子供も保護者も来やすい、入りやすいような雰囲気作り・空間作りを行っている。折り紙を飾ってみたり、絵本を置いてみたりして小中学生が入りやすい雰囲気作りに努めているが、やはりそれは大人が作った空間に過ぎない。実際に子どもが作った折り紙や絵などの作品を飾ってあげたりすると、そこが自分の居場所になって通ってきたりする、という例が今までも結構あった。居場所を求めている子には、本当に必要な居心地のいい場所作りの原点のところにあるものかなと実感している。 このNPO法人アスイクが運営する、子ども第三の居場所おおがわらきちについて、大変期待をしているが、やはりそこも大人が作る空間であり、そこに子供が入ってこれるかどうか、子ども家庭課の支援を受けたり、福祉の支援を受けたりしながら、そこまでは親が何とか動かし、その後にアスイクの方でその子の居場所、その子がどんな居場所を求めていってどんな活動を求
-------	--

片 倉 委 員

めているかというのを、一人一人を見ながら作っていかなければならないのではないかと思う。

おおがわらきちまで誘うことがすごく大事なことであり、そこからその居場所をどう作るのかというのが二つ目に大事なことだと思う。それから第三に、やはり私もアスイクによるおおがわらきちの運営が期限付きだというのが気になる。令和9年3月が最長だということだが、始まってから1年半ぐらいで、その時期を迎えるのではないか。令和7年12月に始まり、令和9年3月に日本財団による助成が終了するので非常に短い。その後、町としてどこまでをやってあげられるかが不安である。

モンスターペアレントについて、保護者として本当に怖いと思う。いつ加害者になるかわからない。言葉の言い合いというか、こじつけでは？読んでいて感じた。このような感じでこじつけのように話されて加害者になってしまうという怖さ。さらにこれ読んでいくと長期間にわたって苦しい立場になってしまい、なかなか上手いこと進まなくなる。そんな言葉を喋ったことによって子供だけではなく親も巻き込まれるという怖さを本当に感じた。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和7年9月19日（金）午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時00分

令和7年8月21日

署名委員

署名委員